

# 平成30年度 第70回 夏期講習

◇期日：平成30年8月1日（水）、2日（木） ◇場所：上伊那教育会館 講堂

○テキスト

西田哲学選集 第一巻

『西田幾多郎による西田哲学入門』

第二部「善の研究」

第一編「純粹経験」第一章

第二編「実在」第一章・第六章～第十章

○講師

京都工芸繊維大学大学院

教授 秋富 克哉 先生

1日目（8月1日）日程

開講式 9:00～9:20

討議1 9:25～11:25

討議2・3 12:25～16:45

「秋富先生と語る会」 17:30～

2日目（8月2日）日程

討議4・まとめ 9:20～11:20

講演会 13:00～14:40

閉校式 14:40～15:00

## 【開講式から】

飯澤 隆 上伊那教育会長挨拶

今年も、この日のために、唐澤正吉先生のご指導をいただいて、今までに4回の読み合わせが行われ本日に至っております。そして、今日明日と2日間、講師として京都工芸繊維大学大学院教授 秋富克哉先生をお招きし、唐澤先生とお二人のご指導をいただき、本年度の夏期講習会がいよいよ始まります。唐澤先生、秋富先生、よろしくお願いいたします。

さて、この夏期講習会ですが、今年で70回を数えます。この講習会は、昭和24年、飯島町の西岸寺で8月3日から3泊4日の日程で行われた夏期講習会に遡ります。「西岸寺講習」と呼ばれるものですが、郡下の青年男女教員が、企画から運営まで一切を担って行われていたということです。今年も、正副運営委員長は若い先生に担っていただいています。その講習会が哲学の講習会へと特化され、本日を迎えているわけであります。

私は、今年の哲学研修の読み合わせ会に4回参加しました。事前に何も読まずに参加をし、読み合わせ会の場で理解しようと何度か読むのですが、理解できないまま進んでしまいます。レポーターの先生方のレポートを読ませていただき、叙述に合わせた経験の部分をお聞きしたり話し合いに参加させていただき、先生方の話を聞いたり唐澤正吉先生のお話を聞いたりして、なんとなく薄ぼんやりと書かれている内容が分かってきたような気分になります。でも、改めて読み直してみると、また迷宮の中をさまよい歩くことになってしまいます。まだ理解も十分ではありません。二日間の読み直しでもう少し理解を深めたいなと思っています。

秋富先生からは「『どうしてこんな会に参加しなければならないのか』『他にやらなくてはならないことはあるのに』と思われる方もいらっしゃるでしょう。しかし、もう逃げられません（笑）。もはや観念してください。どうかだまされたと思ってテキストを開き、そして読み進めていって下さい」というメッセージがありました。

本当に難解な文章ではありますが、文章を読み、そして語り合い、講師の秋富先生や唐澤先生から助言をいただき、今回のテーマである「実在」ということについて、身近な私たちの日常や子どもの姿に照らして自分なりの考えを構築する、自分をふり返り見返す場とする・・・そんな2日間でありたいと思います。

残り多き2日間となりますことをご期待申し上げ、以上、開講の挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

## 丸山 翔平 夏期講習運営委員長挨拶

まず始めに、秋富克哉先生、暑い中遠方よりお越しいただきましてありがとうございます。唐澤正吉先生、ご多用の中、読み合わせ会に引き続きご指導を賜りありがとうございます。そして、この夏期講習にお越しの先生方、ご参加いただきありがとうございます。

この1学期の間、西田幾多郎先生の「善の研究」の読み合わせを通じ、ご参加された先生方のレポート発表や唐澤先生からのご助言をもとに、お互いに理解を深めてまいりました。この二日間はさらなる読み深めと新たな発見ができると思っております。

そして、明日は秋富先生にご講演を賜ります。哲学というものについて、ゆっくりと腰を据えて、多くの先生方と考えを深め合い共有できるこのような場を設けていただけましたこと、本当にありがたいと感じております。この上伊那の地で哲学に触れ、様々な角度から教員としての資質を高められるような学びを得られればと思っております。

以上、簡単ではございますが運営委員長の挨拶とさせていただきます。二日間に渡る夏期講習となりますが、よろしくお願いいたします。



## 【参加した先生方の感想（1）】

○若い先生方が、自分の経験・考えを述べられていて立派だと思いました。純粋経験から神まで、学びを進めることができ幸せでした。何とか理解しようとみんなで対話する良さを十分に味わうことができ、充実した二日間でした。このような場を作ってくださった委員・指導者の皆さんに感謝します。

○哲学は今までに学んだことがなく、正直難しかったです。ですが、レポーターの先生方が作ってくださったレポートや、先生方との話し合いの中で、少しずつ何となくですが「こういうことかな」と思うことが出来ました。哲学を学びながら、日々生活を共にしている子どもたちのことを結びつけて、子どもの見方を学ぶことができました。今までの“哲学”のイメージは「難しい言葉を並べたもの。雲の上の話」というイメージでしたが、今の目の前の子どもや、教師として子どもと関わっている自分と関係づけることができ、イメージが変わりました。（少し軽くなったというか、面白いというか…）「修錬」について、「純粋経験」について、「子どもの見方」について、たくさんを学ばせていただきました。ありがとうございました。

## 【参加した先生方の感想（2）】

- 哲学に出てくる言葉（純粹経験、理、神など）について何だろうと一人で考えているときは苦しかったのですが、他の先生方の意見や考えを聞いているうちに何となく自分なりに解釈できました。レポートの発表者に決まったときは不安でいっぱいでした。学校の行事や日々の業務に追われながらレポートを書いているときは投げ出したくなりました。しかし、第2回の読み合わせでは私の拙いレポートに唐澤先生が意味づけをしてくださったり、討議で秋富先生が私の疑問に答えてくださったり、他の先生方が一緒に言葉を考えてくださったりしたため、終わったときにやってよかったなと思いました。哲学研修を終えて得るものがあつたのはもちろん、唐澤先生、秋富先生を始めとする先生方の姿勢やお話から様々なことを学び、また夏休み明け、子どもたちとともに学んでいこうと思いました。ありがとうございました。
- 他の先生方から子どもの姿をもとにして体験を交えてお話したことがとても有意義でした。西田哲学とかかわらせながら、自分の姿を振り返る契機にもなりました。自分と同じように、他の先生方も悩みを抱えながら日々に取り組みされているんだなあと、心をオープンにして語り合えたことが何よりでした。

### 討議する参加者の皆さん





## 講演会

演題 『 住むことの哲学（２） ＝ 鈴木大拙の「大地」の思想＝』

講師 京都工芸繊維大学大学院 教授 秋富 克哉 先生



講師 秋富 克哉 先生



講師紹介 小澤 徳夫 研修部長

### 【講演を聴かれた先生方の感想（１）】

- 鈴木大拙という人物を、勉強不足で知りませんでした。今回教えていただいた内容の中で、英語文化の中で生きながらも東洋思想を訳し伝えること、日本的靈性で大地が日本人（西欧人も）の根底にあり、そこから離れつつある近代以降の人々への警鐘を鳴らしていたことを知り、驚きを感じました。また、大地と接する機会が減ってきた中だからこそ「詩人として大地の上に住む」ことが大切なのだというヘルダーリン、ハイデッガー、秋富先生の考えが少し理解できた気がしました。冬の講演も楽しみです。
- 人間にとっての大地というお話の中で、私たちの根本は大地であり、近代社会はそこからかなりはなれてきていることに改めて気付きました。学校現場に置き換えてみると、低学年のうちは山や川、虫や植物などに触れる時間、機会が多きように思いますが、高学年になるにつれて、その時間が削られてきているのかな…とも感じます。また、電子黒板やタブレットなどで学ぶことも増えてきています。これから生きる子どもたちにとって、生きる力をつけていく（時代を見据えて）ことはもちろん大事ですが、大地とのかかわりもなくってはならないと強く感じました。
- 「住む」とは「最も身近で基本的」、そして「最も重要」であるが、あまりに身近ゆえに当たり前すぎて却って見過ごされてしまうという先生の言葉から、「住む」ということに改めて興味を持ちました。「住む」と深い関わりのある「大地」について、大拙のお言葉をもとに秋富先生にお話をいただきましたが、「大地」が現代の課題につながっていく様子が興味深いと感じました。特に「大地」から農業や宗教に関連していくところが納得できました。そして、近代化が進む中で農業や宗教といった「大地」からはなれていくこと、さらに、それは「人間」から離れていくことなのだとわかりました。見過ごされてしまいがちな「大地」について改めて考えていかなければ、何か大切なものを失ってしまう気がしました。それを失うことがないように今後も考えていきたいと思えます。ありがとうございました。

## 【講演を聴かれた先生方の感想（２）】

- 自分には難しい部分もあったが、西田と鈴木の交流、そして私たちを支える「大地」というものの捉えについて、ていねいに解説していただいていたありがたかった。鈴木の言う「失くならんとするものを取り戻す唯一の方法は自己反省に他ならぬ」という言葉は、現代の難しい時代を生きる私たちにとって、大切な部分が示されているように感じた。
- 近代化によって大地と接する機会が減っていくことは、これからさらに考えていかなければならない。今夏の猛暑も、今後の学校行事にも大きく影響してくると思われる。どうやって大地と触れる機会を確保していくか、安全面等考え大切なことは何か考えていくことが大事だと思った。

## 【閉講式から】

林 武司 上伊那教育会副会長挨拶

外は夏の暑い太陽が照りつけるまさに猛暑であります、今年もまた夏期講習会が充実の内に終えることができますことを大変ありがたく思います。

なかなか日頃自分一人では触れることのできない哲学というものを、こうした研修の場がなければ、また自分から参加しなければ、おそらく哲学の中にある深みに触れることも、自らに問うこともできません。先生方にとっては、夏休みの多用な中、共に呼び合い誘い合い、自らを奮い立たせ踏み出した、そんな研修の場であったかと思えます。テキストの叙述に、レポートの言葉に、先生方のご発言に、そして秋富先生、唐澤先生の鋭くも温かいご指導に、子どもと向き合う自分自身を見つめ、自分の有り様を問い直す、まさに「哲学する」時間であったのではないかと思います。

「教師は常に学び続けなければならない」と言われますが、費用対効果が重要視され、即効性が求められたり、不祥事に心を痛めたりする、今こそ教師としての根っこが問われます。そんな中、こうして難解な哲学に挑み、学び合ったこの私たちの姿こそが、教師としてあり続ける根っことなっていくものであると思います。そして、この研鑽の事実と先生方の学びの姿こそが、上伊那教育会に脈々と流れている理念「はじめに子どもありき」「限りなき土着性の追求」「たゆまぬ教師の研鑽」の具体であると確信するところです。

ここに至るまで、読み合わせのレポートに沿って、その都度文書による懇切丁寧なご指導をいただき、そして昨日・今日と直接、ご指導、ご講演を賜りました秋富克哉先生、ならびに、これまで4回にわたり事前研修での熱いご指導をいただき、そして昨日・今日と、常に哲学と日々の実践とを関係づけるご指導をいただきました唐澤正吉先生に心より感謝申し上げます。おかげさまで、「哲学する」二日間を味わうことができました。

お二人の先生におかれましては、これからもますますご健康でご活躍されますことをお祈り申し上げますと共に、上伊那の教職員に対して、今後ともご指導を賜りますようお願い申し上げます。

また、今日に至るまでの周到な準備と学習を重ね、このように充実した夏期講習会にいただきました運営委員の皆さん、二日間長時間にわたり、熱心にご参加をいただきましたご参会の皆さん、また講演会に足をお運びいただきました地域の皆様に心より感謝申し上げます、閉講のご挨拶とさせていただきます。

以上をもちまして、「平成30年度 公益社団法人上伊那教育会 第70回夏期講習会」の一切を終了させていただきます。ありがとうございました。